

## へっほこ登山隊活動記録

※スノーシューハイク※



遠軽町 薬師山 標高 373m

登り	1:30	2:20
山頂休憩	0:20	
下り	0:30	

4月2日気温3度、晴れ時々小雪混じりの突風が吹きつける不安定な空模様にもめげず日頃の運動不足を週末で一気に解消すべく里山の散策に出かけました。

遠軽の中心市街から国道333号線を瀬戸瀬方面に向い山裾に沿って進むとまもなく「山神」と書かれた石碑と「薬師山霊場入口」の看板が現れるのでこれを目印に左折すると薬師山登山口の小さな駐車場に到着、登山口の脇には水場があり美味しい湧き水で身を清め隣の薬師山霊場八十八ヶ所略図と書かれた案内板を眺めるとこの山が信仰の対象として大切にされていることがわかります。

普段からあまり信心深くない隊員らもこの日ばかりは登山口のお地藏さまに手を合わせてから登り始めました。

緩やかな登りと明るい雑木林に足取りも軽くはやる気持ちがついついオーバーペース気味、肩で息をしながら見上げると行く手にゴツゴツとした岩肌が迫り、つづら折の道を登り詰めると尾根筋が交差しているのでちょっと寄り道をして左手の細い尾根を伝って行くと岩場の先端から国道と湧別川が足元に見えます。

日頃の不信心と不摂生に加え最初のオーバーペースがたたり早くもバテ気味のメタボ隊員もいて休憩を取りながら修験の道に積もった50センチほどの湿雪を踏みしめてダイエット行脚は続き、頂上を右手に仰ぎながら北斜面を横切り時計回りに一周すると頂上直下南斜面の岩場に出ます。

ここでスノーシューを脱ぎ今度は岩肌に沿ってジグザグに登り切ると視界が開け恐竜の背中のようなゴツゴツした細長い岩場の山頂に到着、晴れていれば北大雪の山並を望むところですが残念ながら強風に運ばれた雪雲に包まれてその姿は見えず、眼下に瀬戸瀬ダム、背後に遠軽の市外地と湧別原野が広がり、その先わずかにオホーツク海を望むことができました。

山頂には山名由来の薬師堂や石をくり抜いた祠などが祭られていてここまで担ぎ上げた強力に敬服、カラミで息を切らし汗だくとなっているメタボ隊員には無言の圧力となりました。

帰り道は南側の斜面を途中からショートカットし一気に下り行きの苦労が嘘のように登山口へ戻り、湧き水でのどを潤し修験の道を締めくくりました。

後日、ネットで調べてみると明治35年に薬師如来を祭る御堂が建立されたそうで100年を越す歴史がありました。

合 掌

